

## 第8回天文教育懇談会報告

去る5月14日13時より東京大学理学部3号館310B教室にて開催，出席者14名。

今回のテーマは「天文学史が天文教育に於て占めるべき位置」であるが，まず天文教育で何を教えるべきかについてかすかすの議論があった。高校へ入学して来る一般の生徒は，太陽の日周運動・年周運動や月のみちかけ・惑星の見かけの運動などについての理解が極めて不十分で，よくわかっているものはほとんどない。この事実を無視して，恒星物理や銀河系宇宙についての議論だけを展開することを，高校における天文教育の主流としてよいとは思われない。

しかし，この位置天文的な部分に時間をかけていると，恒星や宇宙のことを取扱う時間がほとんど無くなってしまふ。小・中学校における天文教育の充実・徹底が切に望まれる次第である。

高校地学関係者の一部には球面天文的なことはやる必要がないと断言する人もいるが，太陽・月・惑星の位置観測や小望遠鏡による観測，星野写真の撮影など，実験実習を通じて，われわれの経験との繋がりをもちたせるためにも球面天文的な知識は，天文の基礎として省くわけにはいくまい。

高校地学では「自然の進化・エネルギーの循環・物質とその分布」を三つの柱と考えている。その意味で，地球は歴史的存在として理解されねばならない。特に天文が物理・化学と違うところは，歴史的存在のほかに，更に宇宙の階層としての存在様式をもつことである。さらに空間的配置だけでなく，巨視的（銀河など）・微視的（素粒子など）な法則が入ってくる。

さて今回のテーマである天文学史については，カリキュラムが整備されてない現在において果して天文学史を天文教育に取り入れてよいかどうか，という疑問が出された。対象が中学生か大学生かによっても受取り方が違う。枝葉末節にとらわれて，天文学者のあげた肝心の研究成果を十分に把握していないということも起りがちである。従って歴史ばかりに重点をおいても弊害がある。やはり歴史だけではだめで，実験観察をもとにせねばならない。例えば衝の前後における火星の星野写真から火星の見かけの運行が分り，コペルニクスの地動説による説明も納得がいく，といった具合である。

しかし教科書は科学的成果を平板的に並べてあるだけで無味乾燥に陥りやすい。天文学史的なエピソードを挿むことによって，これらが始めて生き生きと人間味をと

天文に興味を持ちはじめた小学校上級生から中学校1年生ぐらいの子供たちのための天文の入門書

# 星空の12カ月

12枚の毎月の星図を中心に、星座の話、星の明るさ、金星の動き、流星、月のこと、天の川、変光星のことなど、はじめて星に心をうばわれた少年たちにわかるようにやさしく説明しています。(好評発売中！)  
■古畑正秋著／32ページ／定価900円

初心者が小望遠鏡を月に向けてさて何を見ようかというときに非常に役に立つ「月への案内書」です。

# 月面ガイドブック

前半は観望の手引きで、月令ごとの観測ガイドや、目ぼしいクレーターについて詳述後半は月の写真の写し方で、撮影の基本からハイテクニクまでを、実例を示して解説。(好評発売中！)  
■高橋実著／300ページ／定価980円

夜空の女王「彗星」のすべてを網羅しました。第一線の専門家が観測家が執筆した彗星に関する決定版！

# 彗星

その天文学と捜索者たち

1965年のイケヤセキ彗星や世紀の大彗星といわれたベネクト彗星も私たちの記録に生々しい。本書は歴史に残る彗星を写真で紹介。特に彗星の軌動図には類書のないすばらしい軌動図を載せています。(発売中)  
■天文ガイド別冊／B5変／定価900円

って迫ってくる。更に天文が現実離れしたものでなく、人間の社会生活の中から必然的に生まれて来たもの、換言すれば人類文化の一部であることを理解させねばならない。そのためには当時の社会的背景の描写が欠かせない。例えばガリレイの偉大さは、アリストテレス説の風靡していた当時の状況を知ることなしには十分に理解できないであろう。もう一つ大切なことは、科学史が科学的な考え方とは何か、科学的な研究はいかにして為されるかを教えてくれることである。運用宜しきを得れば、天文学史導入の教育的効果は著しいものがある。とはいえ実際は時間数の不足から、なかなか期待通りには行かないのが現状である。

なおプラネタリウムなどの天文施設では、天文学史関係の資料や模型を系統的に展示して、天文教育の一助としていただきたいと思う。

終りに、今後の会の持ち方について、いろいろ論議した結果、次回からは前もって発表テーマを募集してプログラムを組み、会の前半は研究発表形式をとること、次の会は来年5月の春季年会の時とし、「天文実習について」のテーマで、東京で開催することなどきめて、16時半散会した。(佐藤明達・平瀬志富)

学会だより

大塚奨学金希望者募集

昭和49年度の大塚奨学金を希望される方は、9月25日までに、下記事項記載の上「〒181 三鷹市大沢 東京天文台内日本天文学会庶務理事」あてにお申込み下さい。

(1) 氏名、生年月日、年令、性別 (2) 現住所 (3) 学歴 (4) 職業 (5) 研究題目 (6) 内地留学をしたいと思う機関 (7) 留学を希望する期間と日程 (8) 奨学金の交付希望額 (9) これまでの主な研究歴。なお詳細は、大塚奨学金に関する内規(会員名簿 53 ページ)を御参照下さい。

1974年7月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	—, —	6	—, —	11	—, —	16	—, —	21	—, —	26	5, 62
2	—, —	7	—, —	12	—, —	17	—, —	22	4, 24	27	4, 55
3	—, —	8	4, 45	13	2, 19	18	—, —	23	4, 39	28	5, 42
4	—, —	9	4, 26	14	—, —	19	—, —	24	—, —	29	4, 29
5	—, —	10	4, 22	15	—, —	20	4, 43	25	4, 57	30	4, 33
(相対数月平均値: 55.3)										31	3, 30

東レ科学技術賞および研究助成候補者募集

上記について東レ科学振興会より本会あて推薦依頼が来ています。希望者は10月15日までに、学会庶務理事まで御連絡下さい。募集の要綱はつぎのとおりです。

科学技術賞……(1) 学術上の業績が顕著なもの (2) 学術上重要な発見をしたもの (3) 重要な発明をしてその効果が大きいもの (4) 技術上重要な問題を解決して技術界への貢献が大きいもの、に対し金メダルと副賞250万円。

研究助成……科学技術の基礎的な研究に従事し、その研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる研究を行なっている研究者、またはそのグループに対し1,000万円程度(最高2,000万円) 贈呈期日は両方とも昭和50年3月の予定。

訃報 本会名誉会員神田茂氏は、昭和49年7月29日に80才で逝去されました。謹しんで御冥福を御祈り申し上げますと共に、会員諸氏に御連絡致します。

掲示板

京都大学理学部宇宙物理学教室 教授公募

下記により教授1名を公募致します。

京都大学理学部宇宙物理学教室主任  
川口市郎

記

1. 公募人員 教授 1名
2. 専攻分野 天体物理学
3. 提出書類 履歴書, 研究歴, 論文リスト及び主要論文別刷, 今後の研究計画書(着任希望時期を含む)
4. 公募締切 昭和49年10月20日
5. 宛 先 京都市左京区北白川追分町(〒606) 京都大学理学部宇宙物理学教室 川口市郎

昭和49年8月20日 編集兼発行人 〒181 東京都三鷹市東京天文台内 森 本 雅 樹  
印刷発行 印刷所 〒112 東京都文京区水道2-7-5 啓文堂 松本印刷  
定価 200円 発行所 〒181 東京都三鷹市東京天文台内 社団法人 日本天文学会  
電話武蔵野 31局 (0422-31) 1359 振替口座東京 13595